

一人の力が大きな力へ

更別村立更別中央中学校 3年

渡辺琳佳

私たちが毎日お腹いっぱいご飯を食べているときに、世界のどこかで飢えに苦しんでいる人がいる。同じ時代を生きる人間なのに、なぜ差は生まれてしまうのだろうか。

多かれ少なかれ、私たちにも原因があるのは確かだろう。今、世界の食料が不足していると叫ばれている。しかし、実際は不足なんてしていない。それどころか、余っているくらいなのだ。世界中の人々が必要なカロリーを摂取するには十分な食料が生産されているのだ。つまり、この世界に飢えなど存在しないはずなのだ。

ではなぜ飢えというものが存在してしまうのか。貧しい人たちが住む国でも、国全体では国民すべてが食べるのに十分な食料があるのだ。しかし、その食料は、輸出に回されてしまう。また、外国から無理やり安く輸出させられるため、国内の多くの農家が打撃を受け収入が絶たれてしまう。このようなことの原因が飢えを生み、毎年何千万人もの人々が命を落としている。特に子どもの死亡率は高く、一年間で千四十四万人が亡くなっている。その死因の多くが栄養失調による病気であるのだ。

このような現状を、私たちは放っておいていいのか。いいはずがない。この事実を知った以上、私たちは何か行動にうつすべきであると思う。もちろん、一人一人ができることは小さいだろう。それでも、やるのとやらないのでは全然違う。一人では何も変わらなくても、大勢でやれば必ず結果はついてくるだろう。

では、具体的に何をやっていけばいいのか。もちろん、募金などをする方法もある。しかし、発展途上国などで食料が充分に出回ってないのなら、私たちの食生活を変えれば良いのではないだろうか。無駄に多くの食品を買わない。買った食品を捨てない。このような心がけで、少しずつではあっても、世界を動かさないだろうか。

今、こうしている間にも、世界中で飢えに苦しみ、亡くなっている方がいる。そんな中で私たち一人一人が行動し、大きな力となって世界を変えていこう。